

## 伝道者の書 2章

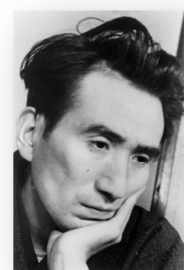
- 1 私は心の中で言った。「さあ、快樂を味わってみるがよい。楽しんでみるがよい。」  
しかし、これもまた、なんと空しいことか。
- 2 笑いか。私は言う。それは狂気だ。快樂か。それがいったい何だろう。
- 3 私は心の中で考えた。私の心は知恵によって導かれているが、からだはぶどう酒で元気づけよう。人の子がそのいのちの日数の間に天の下ですることについて、何が良いかを見るまでは、愚かさを身につけていよう。
- 4 私は自分の事業を拡張し、自分のために邸宅を建て、いくつものぶどう畑を設け、
- 5 いくつもの庭と園を造り、そこにあらゆる種類の果樹を植えた。
- 6 木の茂った森を潤すためにいくつもの池も造った。
- 7 私は男女の奴隷を得、家で生まれた奴隷も何人もいた。私は、私より前にエルサレムにいただれよりも、多くの牛や羊を所有していた。
- 8 私はまた、自分のために銀や金、それに王たちの宝や諸州の宝も集めた。男女の歌い手を得、人の子らの快樂である、多くの側女を手に入れた。
- 9 こうして私は偉大な者となった。私より前にエルサレムにいただれよりも。しかも、私の知恵は私のうちにとどまった。
- 10 自分の目の欲するものは何も拒まず、心の赴くままに、あらゆることを楽しんだ。実に私の心はどんな労苦も楽しんだ。これが、あらゆる労苦から受ける私の分であった。
- 11 しかし、私は自分が手がけたあらゆる事業と、そのために骨折った労苦を振り返った。見よ。すべては空しく、風を追うようなものだ。日の下には何一つ益になるものはない。
- 12 私は振り返って、知恵と狂気と愚かさを見た。そもそも、王の跡を継ぐ者も、すでになされたことをするにすぎない。
- 13 私は見た。光が闇にまさっているように、知恵は愚かさにまさっていることを。
- 14 知恵のある者は頭に目があるが、愚かな者は闇の中を歩く。しかし私は、すべての者が同じ結末に行き着くことを知った。
- 15 私は心の中で言った。「私も愚かな者と同じ結末に行き着くのなら、なぜ、私は並外れて知恵ある者であったのか。」私は心の中で言った。「これもまた空しい」と。
- 16 事実、知恵のある者も愚かな者も、いつまでも記憶されることはない。日がたつと、一切は忘れられてしまう。なぜ、知恵のある者は愚かな者とともに死ぬのか。
- 17 私は生きていることを憎んだ。日の下で行われるわざは、私にとってはわざわざいだからだ。確かに、すべては空しく、風を追うようなものだ。
- 18 私は、日の下で骨折った一切の労苦を憎んだ。跡を継ぐ者のために、それを残さなければならぬからである。
- 19 その者が知恵のある者か愚か者か、だれが知るだろうか。しかも、私が日の下で骨折り、知恵を使って行ったすべての労苦を、その者が支配するようになるのだ。これもまた空しい。
- 20 私は、日の下で骨折った一切の労苦を見回して、絶望した。
- 21 なぜなら、どんなに人が知恵と知識と才能をもって労苦しても、何の労苦もしなかつた者に、自分が受けた分を譲らなければならぬからだ。これもまた空しく、大いに悪しきことだ。
- 22 実に、日の下で骨折った一切の労苦と思ひ煩いは、人にとって何なのだろう。
- 23 その一生の間、その営みには悲痛と苛立ちがあり、その心は夜も休まらない。  
これもまた空しい。
- 24 人には、食べたり飲んだりして、自分の労苦に満足を見出すことよりほかに、何も良いことがない。そのようにすることもまた、神の御手によることであると分かった。
- 25 実に、神から離れて、だれが食べ、だれが楽しむことができるだろうか。
- 26 なぜなら神は、ご自分が良しとする人には知恵と知識と喜びを与え、罪人には、神が良しとする人に渡すために、集めて蓄える仕事を与えられるからだ。これもまた空しく、風を追うようなものだ。

# ソロモンの壮大な実験

伝道者の書2章

## I. 人生をためしたソロモン

1. 努力によって：王宮の建設、途方もない蓄財  
「自分のために」(8回)
2. 快楽によって：贅沢、娯楽、千人の美女に囲まれる生活
3. 過程は楽しかった(10 節)
4. しかし、実現してみると空しかった(11 節)
5. 太宰治 『トカトントン』 (昭和22年発表)



太宰治  
(1909 - 1948)

## II. 人生を憎んだソロモン

1. 知恵ある者も愚かな者も、死を免れない(16 節)

ヨブ記 3 : 19 かしこでは、下の者も上の者も同じで、  
奴隷も主人から解き放たれている。

2. 自分が得たものをすべて残していかなければならない(18 節)

ルカの福音書 12 : 20 『愚か者、おまえのたましいは、  
今夜おまえから取り去られる。おまえが用意した物は、い  
ったいだれのものになるのか。』

3. 自分の跡継ぎがすべてを浪費するかもしれない(19~22 節)  
ソロモンの死後、王国は分裂 (息子、レハブアムの失政)
4. 自分のしたことの報いは免れない(23 節) 王国の衰退が始まる  
重税の取り立て、王の贅沢に対する民の怨嗟
5. オスカー・ワイルド 『獄中記』

ガラテヤ 6 : 7 思い違いをしてはいけません。神は侮ら  
れるような方ではありません。人は種を蒔けば、刈り取り  
もすることになります。



オスカー・ワイルド  
(1854~1900)

## III. 人生を受け入れたソロモン

1. 神を認めたとときに見方が一変 (24~26 節)
2. 「食べる」「飲む」「労苦に満足を見出す」「楽しむ」ことができるのは神を認めてこそ。(25 節)
3. 知恵と知識と喜びは神から与えられる(26 節)
4. 罪人が得をすることはない(26 節)
5. 日本人がイメージする神と、聖書の神

詩篇 116 : 6 主は無学な者(the simple)  
を守られる。わたしが低くされたとき、主  
はわたしを救われた。(口語訳)

テモテへの手紙第一 6 : 15 ~ 18 **神は祝福に満ちた唯一の主権者、王の王、主の主、ただひとり死のない方であり、近づくこともできない光の中に住まれ、人間がだれひとり見たことのない、また見ることもできない方です。誉れと、とこしえの主権は神のものです。アーメン。**

この世で富んでいる人たちに命じなさい。高ぶらないように。また、たよりにならない富に望みを置かないように。むしろ、**私たちにすべての物を豊かに与えて楽しませてくださる神**に望みを置くように。また、人の益を計り、良い行いに富み、惜しまずに施し、喜んで分け与えるように。